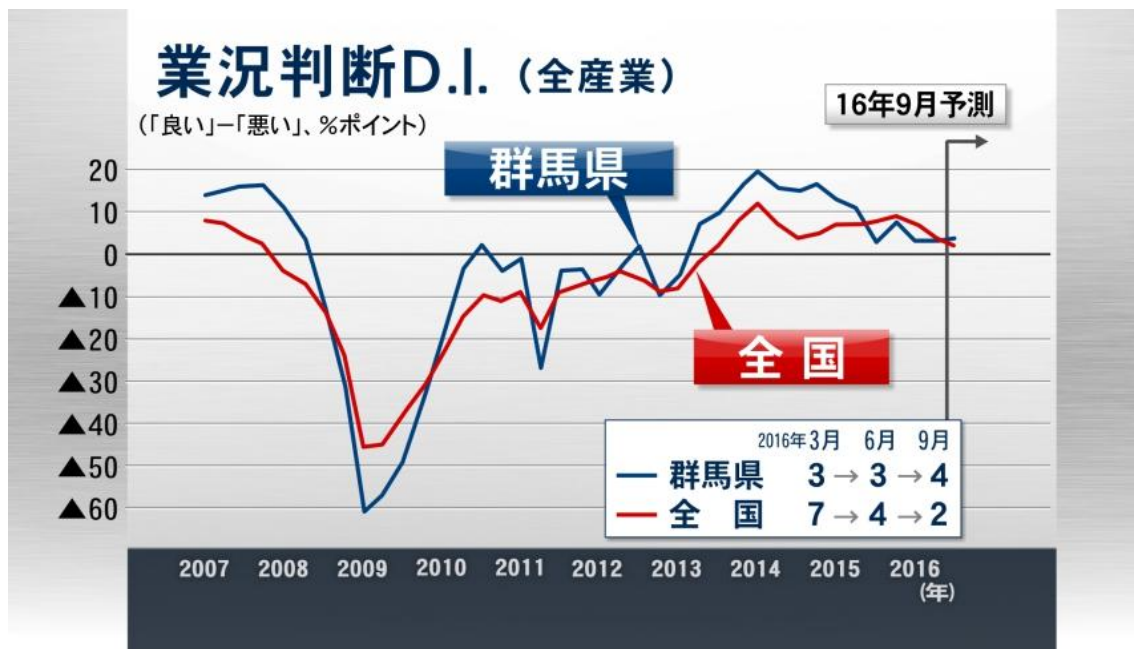


[番組名] 群馬テレビ「ビジネスジャーナル」  
[放送日] 2016年7月15日  
[テーマ] 日銀短観でみる県内経済の足取り

(キャスター) 「プラスオピニオン」のコーナーは、日本銀行前橋支店長の神山一成さんに、『日銀短観でみる県内経済の足取り』というテーマでお話をうかがいます。よろしくお願いします。

(神山支店長) よろしくお願ひします。日本銀行では、7月1日に「企業短期経済観測調査」——いわゆる日銀短観——を公表しました。  
本日は日銀短観から読み取れる、県内経済の足取りについてご説明したいと思います。

まずは業況判断D.I.の推移をご覧ください。



(神山支店長) 業況判断D.I.は、景気が「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を引いた値です。「良い」と答えた企業が「悪い」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

群馬県の業況判断D.I.は、今回6月調査ではプラス3と、前回調査と同じD.I.となりました。D.I.のプラスは2013年6月以降13期連続となります。

一方、全国は、前回プラス7からプラス幅が3ポイント縮小し、今回はプラス4となりました。

なお、先行き9月は、群馬県がプラス4、全国がプラス2と、群馬県が小幅改善する一方、全国はさらに悪化する見通しとなっています。

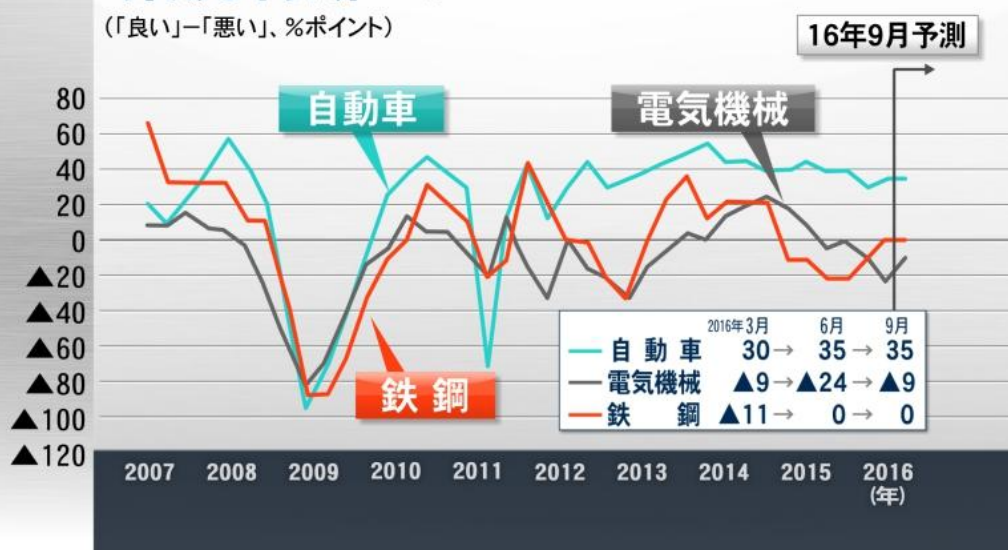
(神山支店長) それでは、製造業と非製造業に分けてみていきたいと思ひます。次のフリップをご覧ください。

## 業況判断D.I. (製造業)



(神山支店長) まず、製造業です。前回3月調査で0となった群馬県は今回、マイナス2となりました。先行き9月はプラス5と持ち直す見通しです。

## 業況判断D.I. (自動車、電気機械、鉄鋼)



(神山支店長) 製造業をさらに分けてみていきますと、今回6月は、自動車がプラス30からプラス35へとプラス幅が再び拡大し、大幅マイナスであった鉄鋼がゼロまで改善しています。

一方、電気機械は今回、マイナス幅がいったん拡大するかたちとなりました。

## 6月短観のポイント（製造業）

- ① 円高の進行
- ② 商品市況の持ち直し
- ③ 北米向け自動車輸出の好調持続

（神山支店長） 電気機械のD.I.の悪化の背景にありますのが、為替円高の進行です。電気機械では、新興国・資源国経済の減速により売上数量が減少する中、為替円高によって収益がさらに下押しされているため、業況判断がはっきりと悪化しています。

一方、鉄鋼では、大幅に下落していた商品市況が幾分持ち直していることから、業況判断が改善しています。

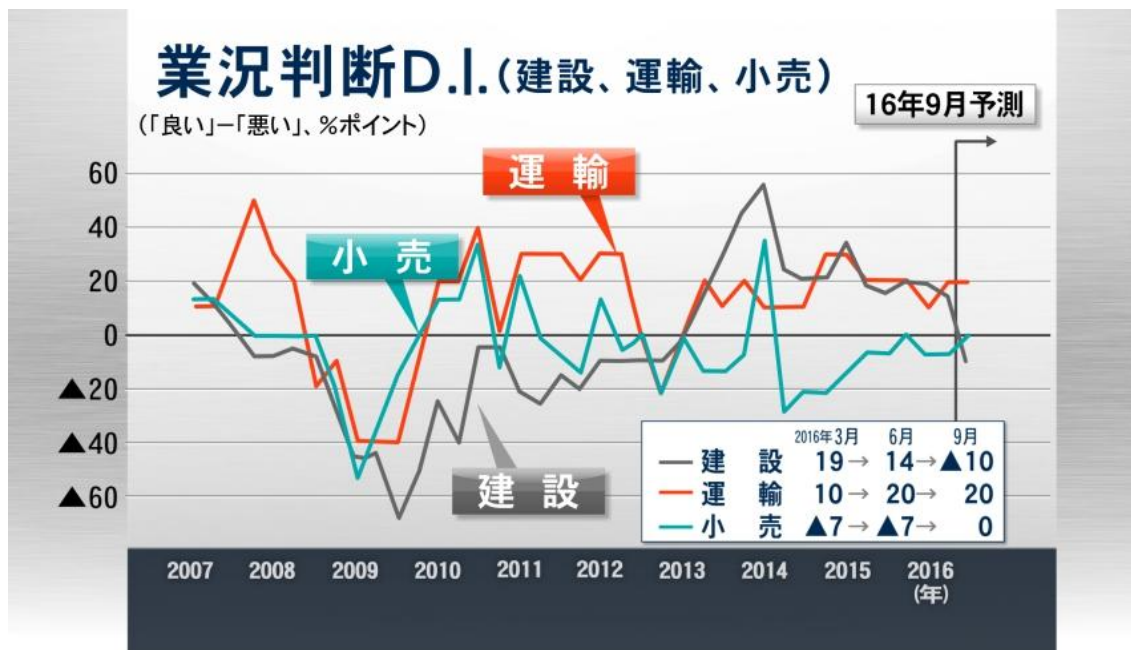
また、当地主力の自動車は、北米向け輸出が好調であり、これまでの取り組みにより収益力も大きく高まっていることを反映して、きわめて良好な業況を維持しています。

## 業況判断D.I.（非製造業）

（「良い」-「悪い」、%ポイント）



(神山支店長) 次に、非製造業です。今回、群馬県はプラス7と、前回プラス9からプラス幅が2ポイント縮小しています。先行き9月はプラス4と、さらに3ポイントのプラス幅縮小を見込んでいます。



(神山支店長) 非製造業についてもさらに分けてみていきますと、小売はマイナス7で横ばい、運輸はプラス20とプラス幅が再び拡大しています。

一方、建設は足もとプラス14までプラス幅が縮小しており、先行きはマイナスに転化する見通しとなっています。

## 6月短観のポイント (非製造業)

- ① 公共工事の減少
- ② 個人消費の底堅さ
- ③ 物流拠点の整備進展

(神山支店長) 建設の業況判断悪化の背景は、公共工事の減少です。  
 小売では、全国的にみますと、年初来の株価下落の影響などにより弱い動きが目立っていますが、当県ではインバウンド消費や高額消費の落ち込みの影響が大きくなり、売上高が総じて底堅い動きを続けているため、業況判断は悪化しませんでした。  
 また、運輸では、北関東における物流拠点の整備が進むもとの、運送・保管需要が拡大しているため、足もとの判断は改善しています。

(キャスター) 日本銀行の「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」の影響は、今回の短観では確認できたのでしょうか。

(神山支店長) 金融機関の貸出態度判断D. I. の推移をご覧ください。金融機関の貸出態度判断D. I. は、金融機関の貸出態度が「緩い」と答えた企業の割合から「厳しい」と答えた企業の割合を引いた値です。「緩い」と答えた企業が「厳しい」と答えた企業よりも多ければ数値はプラス、少なければマイナスとなります。

この指標により、企業サイドから金融機関の貸出スタンスがどのように評価されているかを確認することができます。



(神山支店長) 実際の数字をみますと、金融機関の貸出態度判断D. I. は、昨年後半以降、「緩い」超幅拡大の動きが足踏み気味となっていたのですが、本年2月に日本銀行が導入した「マイナス金利付き量的・質的金融緩和」のもとで、県内金融機関の融資スタンスが一段と積極化していることから、「緩い」超幅が再び拡大する動きとなっています。

(キャスター) 企業の事業計画については、どのようになっていますか。

## 設備投資計画

前年度比、%

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比 修正率
<b>全産業</b>	4.5	7.5	▲2.4	10.4	▲0.9
<b>製造業</b>	0.6	21.2	1.6	26.0	4.7
<b>非製造業</b>	12.2	▲14.4	▲11.4	▲29.1	▲20.2

(神山支店長) 2016年度の全産業の設備投資計画は、前回3月調査から若干下方修正されましたが、引き続き、前年を2ケタ上回る計画となっています。

非製造業では、全国展開している企業において個人消費がもたついている地域での出店を絞り込む動きや、人手不足から新規出店を取り止め、既存店のリニューアルにとどめる動きなどがみられるもとの、引き続き前年を大幅に下回る計画となっています。

一方、製造業では、自動車関連を中心に、生産性の引き上げを狙った機械等の維持更新投資や省人化等の効率化投資を加速させていくことを計画する先が少なくないことから、大幅に増加しています。

(キャスター) その他の事業計画については、どのようになっていますか。

## 想定為替レートと収益計画

円/ドル

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比
<b>想定為替レート (製造業)</b>	99.42	108.11	120.33	109.93	▲1.28

前年度比、%

	2013 年度	2014 年度	2015 年度	2016 年度	前回調査比 修正率
<b>売上高 (全産業)</b>	10.9	1.0	0.7	0.3	▲0.3
<b>経常利益 (全産業)</b>	9.5	1.6	7.3	3.8	▲1.4

(神山支店長) 県内企業の売上高と経常利益をみますと、2016年度は、売上高は微増ですが、収益ははっきりと増加する計画です。増収増益は4年連続となります。2015年度に続き、2016年度も、売上高に比べて経常利益の増加幅が大きく、利益率はしっかり上昇しています。

ただし、今回の短観の企業からの回答は、6月23日に実施された英国の国民投票結果前のものであるため、欧州連合からの離脱を受けて、為替円高が進行したことなどは、企業の業況判断や収益計画に織り込まれていないことに注意が必要です。

製造業の想定為替レートをみますと、109.93円と、足もとの水準102円前後から大きく乖離しています。当地製造業は輸出比率が高いため、為替動向により収益が大きな影響を受けがちです。このことを踏まえながら、今後の動向については注意深くみていきたいと思えます。

(キャスター) 本日は、「日銀短観でみる県内経済の足取り」をテーマに、お話をうかがいました。ありがとうございました。

以 上